

第3回新しい美浜の学校教育検討委員会 視察報告書

1. 視察概要

【日 時】令和8年5月12日（火） 10時00分～15時30分

【視 察 先】加東市立 東条学園小中学校（兵庫県）

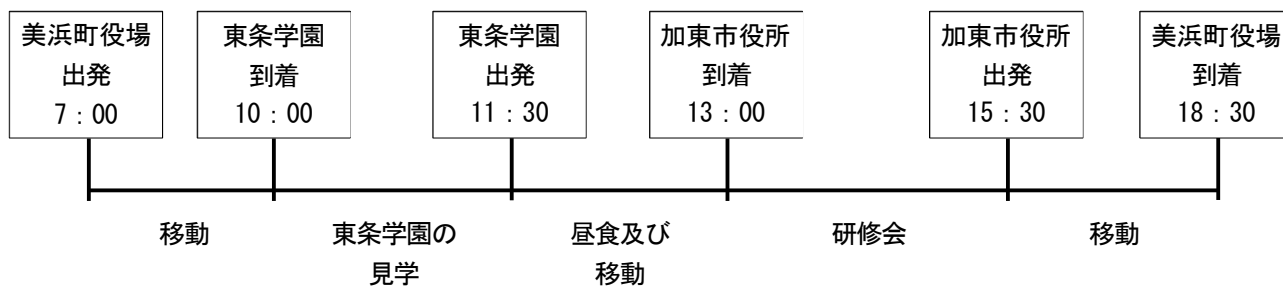
【主な内容】10:00～11:30 東条学園の見学

13:00～15:30 研修会（加東市役所2階201号室）

<研修会のプログラム>

1. 開会
2. 歓迎あいさつ
3. ごあいさつ
4. 研修事項
 - 小中一貫校の施設等
 - 小中一貫教育の内容等
5. 閉会

【工 程】



2. 視察参加者

【出席委員】 12名

名古屋市立大学 特任教授	鈴木 賢一
松原小学校 教頭	楠見 智弘
和田小学校 校長	立花 寿雅子
松洋中学校 校長	吉村 元
松原小学校 学校運営協議会 会長	田端 正幸
松洋中学校 学校運営協議会 会長	塩崎 清則
区長会 会長	田中 一民
区長会 代表	村岡 茂
美浜町教育委員会 教育長職務代理	出口 和幸
美浜町教育委員会 委員	津村 仁志
美浜町役場 副町長	石塚 和夫
保護者代表	和田 亜貴

【欠席委員】 17名

安藤 福光（兵庫教育大学 准教授）
松永 健哉（ひまわりこども園PTA ひまわり会 会長）
田口 誠（こじか保育園PTA さくら会 代表）
津村 陽介（こじか保育園PTA さくら会 代表）
平井 絢弥（松原小学校PTA 共啓会 会長）
龍神 早奈恵（松原小学校PTA 共啓会 副会長）
西 貴生（和田小学校PTA 育友会 会長）
松下 哲也（松洋中学校PTA 松洋会 副会長）
永井 洋二（松洋中学校PTA 松洋会 副会長）
福田 円（松原小学校 校長）
坂田 香織（和田小学校 教頭）
越本 明伸（松洋中学校 教頭）
久保 博巳（区長会 副会長）
井本 善也（区長会 代表）
田端 克好（ひまわりこども園PTA ひまわり会 副会長）
西野 豪倫（和田小学校PTA 育友会 副会長）
片山 隆（和田小学校 学校運営協議会 会長）

【加東市】

加東市副市長 小林副市長
加東市教育委員会 藤原教育長
加東市教育委員会事務局 小中一貫教育推進室 高田室長、泥谷副課長、柴崎主査、宇高主査

【事務局】

美浜町教育委員会 塩崎教育長
美浜町教育委員会教育課 北村課長、伊藤指導主事（主幹）、徳田係長
（株）地域計画建築研究所（アルパック） 清水、増見、城本、古谷

3. 東条学園の見学

【概要】

- ・東条学園では、小学生から中学生までが同じ施設で学ぶことを踏まえ、発達段階に応じた生活動線や学習環境が整えられている。玄関、手洗い場、プレイロット、図書室、多目的スペースなどは、児童生徒の年齢や活動内容に応じて使いやすいよう工夫されている。
- ・小中一貫教育を進める上で重要となる異学年交流や教職員間の情報共有にも配慮されている。学園ホール、つながりのにわ、地域交流室、職員室などは、児童生徒同士、教職員同士、学校と地域がつながるための空間として整備されている。
- ・バスロータリー、屋根付き通路、外部から直接体育館に入れる階段、屋上プールなど、通学・送迎、安全性、地域利用、敷地の有効活用も意識されている。
- ・全体として、発達段階に応じた学校生活を支えるとともに、地域利用にも配慮しながら、小中一貫教育を支える空間づくりが行われている。

【主な施設の紹介】

No	写真	施設整備の工夫・配慮など
1		<ul style="list-style-type: none"> ・校舎棟と大グラウンドをつなぐ連絡橋。 ・敷地内の高低差や施設配置を踏まえ、児童生徒が校舎とグラウンドを安全に行き来できるよう整備されている。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスごとに分けられた駐輪場。 ・生徒が自分の駐輪場所を把握しやすく、登下校時の混雑や混乱を抑える工夫がされている。
3		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス等の乗降に対応したロータリー。 ・登下校時に児童生徒が安全に乗降できるよう、車両動線と待機場所に配慮されている。

4	 <p>通路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドからバスロータリーまで続く屋根付き通路。 ・雨天時のバス移動の際にも、児童生徒が雨に濡れずに一時集合・移動できる。
5	 <p>小学生玄関</p>  <p>中学生玄関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生玄関と中学生玄関が分離された玄関ホール。 ・小学生と中学生の生活リズムや動線の違いに配慮し、円滑に登下校できるよう工夫されている。
6	 <p>トイレ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤・青で性別を強調するのではなく、施設全体の雰囲気に合わせて木調のサインと文字による落ち着いた表示。
7	 <p>手洗い場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に応じて、使いやすい高さに整えた手洗い場。 ・小学生から中学生までが同じ施設で過ごすことを踏まえ、日常的な使いやすさに配慮されている。
8	 <p>多目的スペース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の隣や廊下の端に配置された多目的スペース。 ・学級や学年を越えて子どもが集い、発表会、集会、グループ学習、自習、情報交流など、さまざまな用途に活用できる。

9	 <p>プレイロット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年教室前に設けられた、上履きのまま遊べる屋外遊具広場。 ・低学年の児童が教室の近くで安全に遊べるように配慮されている。
10	 <p>図書室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本から調べ学習に活用できる資料まで、発達段階に応じた幅広い図書を備えた読書・学習情報センター。 ・小中の子どもが集い、本や資料に触れながら、個別・グループで多様な学びを広げられる場となっている。
11	 <p>学園ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学年のみんなで」「小中の垣根を越えて」給食を食べながら交流できる空間。 ・小さなホール、会議場、地域交流スペースとしても活用できる。
12	 <p>武道館</p>  <p>小体育館</p>  <p>大体育館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小体育館、武道館、トラス構造の大体育館。 ・体育授業、部活動、学校行事など、多様な活動に対応できる施設構成となっている。
13	 <p>階段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来客が外から直接大体育館に行ける階段。 ・地域利用時に学校生活の動線と分けて利用できるよう配慮されており、地域の社会体育等での活用にも対応しやすい。

14	 <p>つながりのにわ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な交流が生まれる中庭。 ・小学生と中学生が集い、多くの目で見守られながら、学年を越えたつながりが生まれる空間となっている。
15	 <p>屋上プール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉や虫が入りにくく、周囲の景色を楽しめる屋上プール。 ・限られた敷地を有効に活用しながら、外部からの視線にも配慮されている。
16	 <p>地域交流室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方も使用できる部屋。 ・学校と地域の交流や地域活動にも対応できる空間として整備されている。
17	 <p>職員室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにテーブルを分け、モニターを活用して情報共有しやすい職員室。 ・小中一貫教育を進める上で、教職員が協力しやすい体制づくりに配慮されている。
18	 <p>保健室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良時やけがの際、保護者の迎えや外部との対応がしやすいよう、保健室付近に出入口が設けられている。

4. 研修会 議事録

発言者	内 容 (口 述)
1. 開会	
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定刻となりましたので、ただいまから研修会の部を始めさせていただきます。本日の進行を務めます、加東市教育委員会事務局小中一貫教育推進室の宇高です。よろしくお願いいたします。 ・ はじめに、加東市の出席者を代表して、小林副市長よりご挨拶申し上げます。
2. 歓迎あいさつ	
加東市 (小林副市長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日は、東条学園までお越しいただき、ありがとうございます。加東市は市制 20 周年を迎え、現在、全市的に小中一貫教育を進めています。 ・ 加東市では、合併後の公共施設のあり方や小規模校化を避けたいという考えから、旧町単位を基本として、東条、社、滝野の 3 地域で小中一貫校の整備を進めています。 ・ 学校の統合にあたっては、特に高齢の方を中心に、地域から学校がなくなることへの反対意見も多くありました。しかし、加東市としては、子どもたちにとってより良い教育環境を整えることを重視し、保護者の理解・賛同を得ながら小中一貫校の整備を進めてきました。 ・ 美浜町でも、新しい学校教育の検討委員会を立ち上げ、説明会も丁寧に進められていると伺っています。本日の視察が、今後の検討の参考になれば幸いです。
3. ごあいさつ	
美浜町 (石塚副町長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日は、大変お忙しい中、貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。午前中は東条学園を丁寧にご案内いただき、多くのことを学ばせていただきました。 ・ 美浜町では、本年 2 月に新しい美浜の学校教育検討委員会を立ち上げ、小学校 2 校の統合とあわせて、中学校との小中一貫教育の導入について検討を始めたところです。 ・ 今回の視察は、検討委員会の委員長をお願いしている兵庫教育大学の安藤先生からご紹介いただき、実現したものです。 ・ 事前に多くの質問をお送りしたにも関わらず丁寧にご回答いただいておりますが、本日は直接お話を伺い、今後の検討に活かしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。
4. 研修事項	
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席者の紹介については、配付している名簿をもって代えさせていただきます。 ・ それでは、研修事項に入ります。美浜町から事前にいただいた質問について、資料に基づき回答させていただきます。途中で質疑の時間も設けますので、ご質問があればお知らせください。 ・ はじめに、学校施設に関わる分野について、柴崎から説明します。
4-1 小中一貫校の施設等	
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にいただいた質問のうち、ハード面に関わる内容を中心に説明します。

●小中一貫教育の導入に至った経緯

- ・小中一貫教育の導入に至った経緯について、加東市では平成 26 年 12 月に「公共施設適正配置計画（案）」を公表し、その一環として、地域単位で学校施設の統合を視野に入れた小中一貫教育を推進する方針案を示しました。
- ・住民と協議しながら成熟させる進め方ではなく、市の計画として先に公表したため、住民の皆様にとっては突然の話となり、当初は不安や反発も大きい状況でした。
- ・その後、平成 27 年 1 月から 3 月にかけて、小学校単位で住民説明会、保護者説明会を計 19 回開催しました。小中一貫教育が分かりにくいという声も多く、学識経験者、市区長会代表、保護者代表、学校関係者などによる「小中一貫教育研究会」を設置し、課題整理と方策の検討を進めました。
- ・研究会から、加東市は小中一貫教育を推進すべきであるとの提言を受け、平成 27 年 8 月の臨時教育委員会で、小中一貫教育の推進と整備方針を決定しました。

●市内 3 地域での学校整備方針

- ・加東市には、もともと 12 の小中学校がありました。旧町単位を基本として 3 つの小中一貫校に集約する方針です。東条学園は義務教育学校として新築し、社学園と滝野学園は併設型小中一貫校として整備しています。
- ・社学園と滝野学園は、中学校を改修し、渡り廊下等で小学校部分とつなぎ、一体的に教育を行う形です。義務教育学校と併設型小中一貫校は制度上の違いがありますが、加東市としては、全市で小中一貫教育を進めることを重視しています。
- ・3 校を同時に整備することは財政上難しいため、平成 28 年度から東条地域、令和元年度から社地域、令和 4 年度から滝野地域という順番で開校準備委員会を立ち上げ、段階的に進めています。

●先進地視察の実施状況

- ・視察については、「小中一貫教育や小中一貫校が分からないままでは議論ができない」という考えから、教育委員会・事務局、教職員、市議会・開校準備委員会・地区役員等に分けて実施しました。
- ・当初は事務局にとっても小中一貫教育は初めての内容であったため、前半は主にハード面、後半は主にソフト面を中心に、先進校の視察や研修を重ねました。
- ・実際に教育を担うのは教職員であり、全市で取り組む小中一貫教育を活かせるかどうかは、教職員の理解と力量にかかっています。懐疑的な意見もあったため、教職員にも実際の学校を見てもらい、丁寧に理解を得ることを重視しました。
- ・市民や市議会議員の中にも疑義を持つ方が多かったため、同じものを見て、同じ認識を持った上で議論できるようにすることも視察の目的でした。これまでに 68 回の視察を実施しています。

●反対意見への対応

- ・反対意見への対応について、加東市では、平成 26 年 12 月に議会説明を行い、平成 27 年 1 月に広報紙へ掲載して公表しました。地域住民の中には、母校が廃校になることへの思いから、特に高齢者を中心に反対の声が多くありました。
- ・説明にあたっては、児童生徒数の減少、複式学級の可能性、子ども同士の多様な関わり、昭和 30 年代に建てられた学校施設の老朽化、将来を見据えて単純に建て替えるだけでよいのかといった点を丁寧に説明しました。
- ・説明会では多くの反対意見がある中で、小学校の保護者から「子どもたちがコミュニケーションを取れるように、小中一貫校になることを強く望んでいる」といった発言が出始めました。こうした意見をきっかけに、小中一貫教育の必要性が徐々に浸透していきました。

●設計の進め方・事業費

- ・設計の進め方については、旧町単位に 3 地域 3 校へまとめることとし、整備全体では長期のスケジュールとなりました。東条学園は新築で、社学園と滝野学園は改修を含めた整備です。
- ・東条学園の事業費は、建設費、解体費、用地費、移転費、備品、設計などを含めて 58 億 2,300 万円です。新築・解体費は 50 億 3,200 万円程度で、備品費も大きな金額となっています。
- ・基本設計、実施設計はプロポーザルで設計者を選定しました。建設費については物価上昇等により差が生じることもありますが、根拠を持って整理し、工事監理も重要になります。
- ・地域の意見については、学校施設周辺的生活環境に関する意見が中心になります。一方で、教室配置や特別教室の使い勝手などは、できる限り教職員の意見を参考にしました。
- ・東条学園は先進地と比較しても贅沢な施設になっていますが、社学園、滝野学園では事業費を抑えながら、必要な機能を確保することが課題になります。

●学年の区切り

- ・学年の区切りについては、3・3・3 制、4・3・2 制、6・3 制などさまざまな考え方があります。加東市では、子どもの発達の早まり、英語教育、近年の教育形態、学校環境などを踏まえ、4・3・2 制としています。
- ・この 4・3・2 制に合わせて校舎配置も検討しており、第Ⅱステージである 5 年生から 7 年生を近い位置に配置することで、小中の接続を緩やかにすることを意識しています。

●学校用地の選定

- ・学校用地の選定について、東条学園では、東条中学校跡地の約 3ha に加え、県道を挟んだ文化会館横の市有地を活用して約 1.5ha を確保しました。
- ・敷地が限られる都市部の先進事例も参考にしながら、プールは屋上に設置しました。
- ・東条中学校の裏山が土砂災害警戒区域に、校舎建設予定用地は想定

	<p>最大規模の浸水想定区域に含まれることから反対意見もありました。しかし、学校は災害時の避難場所にもなり得るため、耐震性を通常より高い水準で確保し、周辺住民の安心・安全につなげました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社学園では、ため池を買収したことによる周囲への影響に対応するため、雨水調整機能を付加しています。 <p>●維持管理費とスクールバス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理については、防犯カメラ、防犯設備、スクールバス等の費用が大きくなります。校区が広がる場合は地域交通との調整も必要になり、加東市では学校統合により児童の通学距離が長くなる地域が生じ、スクールバスを導入するしかない状況でした。 ・社学園ではスクールバス 11 台を導入しており、関連経費も大きなものとなっています。
質疑応答	
事務局（美浜町）	<ul style="list-style-type: none"> ・東条学園の 58 億 2,300 万円はすべての経費込みという説明でしたが、スクールバスを除いた経常経費だけで見ると、3 校を統合した場合は経費が下がるのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・東条学園の事業費は、小中一貫校の建設に係る臨時的な経費として整理しています。教育総務課に開校担当があり、経常経費とは分けて管理しています。経常経費のみで比較した場合については、確認の上、別途ご連絡します。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラなどを設置しているとのことですが、現在の方が合併前より維持管理費は高くなっているのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・東条学園の経常経費は、統合前の 3 校で約 2,000 万円でしたが、令和 6 年度の東条学園では約 2,800 万円となっており、増加しています。 ・防犯カメラを多く設置しており、バスのリースや購入などの費用も発生しています。統合によって施設維持管理費が単純に 1+1+1 から 2.5 程度になると想定していましたが、実際には 3+α という感覚です。
事務局（AR）	<ul style="list-style-type: none"> ・その経常経費には修繕費は入っていないのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕費はほとんど入っていません。令和 2 年度、統合前の 3 校については大規模な修繕は控えておりますし、令和 6 年度の東条学園についても屋根からの雨漏り等の修繕はありますが、建設の瑕疵担保責任の範疇となっております。そのため比較には修繕費がほとんど含まれておりません。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・国からの補助金はいくら程度でしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・東条学園は総事業費 58 億 2,300 万円のうち、国庫補助が約 14 億円、起債が約 38 億 3,500 万円、その他が約 2,700 万円、一般財源が約 5 億 6,300 万円です。 ・これは当時の金額であり、現在は物価上昇により相当上がっています。社学園は 1,200 人規模で、最終的な整備が一部残っていますが、令和 7 年度決算資料では約 75 億円、うち国庫補助が約 12 億 7,500 万円です。国の補助メニューをうまく活用できるかどうかで大きく変わります。

事務局（教育長）	・教職員のプロジェクトチームはどのくらいの規模で設置したのでしょうか。
加東市	・3 地域すべてでそれぞれ取り組みました。東条地域では全教員に相談した結果、收拾がつかなくなったため、社・滝野地域では、教科単位ごとに長を設けて分け、事務方や管理職もチームに入れました。多くの方の意見を直接集めることは難しいため、ある程度集約した上で意見を集める形にしました。
事務局（教育長）	・各教科単位でそれぞれ出された意見を、どのように全体として取りまとめていくのでしょうか。
加東市	・基本設計の段階で、教科単位ごとに集まっていたいただき、最初のたたき台をもとに意見をもらいました。最終的には、コンセンツの位置まで教職員とやり取りをしました。
事務局（教育長）	・東条学園は新築ですが、社学園は旧校舎を改修しながら整備しているとのこと。仮設校舎は使ったのでしょうか。
加東市	・仮設校舎は費用が高く、1,200 人規模になると非常に大きな金額になるため、使用しませんでした。 ・先に小学校校舎の増築を行い、中学校を引っ越しさせ、その間に中学校校舎を改築しました。仮設校舎を建てる場合、多くはグラウンドに設置することになるため、日常的なグラウンド利用等に制限が生じます。引っ越しや備品の移動は大変ですが、費用面では仮設校舎を使用しない方が抑えられ、教育環境も守ることができます。
事務局（美浜町）	・クラスルームや職員室の検討はどのように行ったのでしょうか。
加東市	・東条学園をベースに社学園を設計しており、東条学園、社学園ともに同じ業者が設計しています。 ・普通教室や特別教室については、教職員や管理職の意見を踏まえ検討しました。 ・教室形状については、当初は一律で横長が良いと考えて整備しましたが、結果的に中学校では縦長の方が良かったとの声がありました。この点は反省点として受け止め、滝野学園でより成熟させたいと考えています。ただし、事業費を抑える必要もあります。
事務局（教育長）	・フリースペースなどの発想は、設計者やコンサルタントからの提案によるのでしょうか。
加東市	・コンサルタントや設計者の提案もあります。担当者レベルでも先進地を視察し、多目的ルームなどの良い点を取り入れました。国の補助対象となる機能もあり、事業者から最新の情報を得ながら検討しました。
4-2 小中一貫教育の内容等	
加東市	・ソフト面について説明します。加東市の小中一貫教育のグランドデザインは、東条学園の学校案内に掲載しています。 ●グランドデザインと9年間のカリキュラム ・東条学園では、学校教育目標を「自ら学び ころ豊かに たくましく生き抜く学園の育成」とし、9年間を見通した「つなぐ・つながる」カリキュラムを進めています。 ・4・3・2 制により、第 I ステージでは学びの基礎・基本を習得し、第

- Ⅱステージでは自ら学ぶ方法や話し合いの方法を習得し、第Ⅲステージでは自ら学び合い、発信する力を育てることを意識しています。
- 4・3・2制では、児童生徒の学力向上とリーダーシップの育成を目指しています。
- 中学校の教員が小学校の児童に指導する光景も日常的になっており、第Ⅱステージでは小中学校の教員が連携して学習指導、生徒指導にあたっています。
- 7年生の職業体験「東条の匠」を6年生や4年生が見学するなど、異学年交流を通じて、上級生への憧れやキャリア教育の見通しを持てるようにしています。

●児童生徒の主体的な活動

- 第Ⅰステージではキッズミーティング、第Ⅱステージではステージミーティングを行い、4年生や7年生が中心となって、各ステージの活動を進めています。

●異学年交流の工夫

- 令和7年度に開校した社学園では、ステージ朝会として、5年生、6年生、7年生が交流する場を月1回設けています。異学年交流は、小中一貫教育推進室と学校管理職が連携しながら考えています。
- 東条学園では、小学校段階と中学校段階で授業時間が異なるため、時間割や休み時間にずれが生じますが、時間割を調整しながら異学年交流の時間を確保しています。また、保護者の参加が減ったため、令和7年度からは7年生進級式、いわゆる中学校入学式は行っていません。
- 滝野地域では、統合・開校前から小小交流を進めており、滝野南小学校の児童が滝野東小学校へ行って交流するなど、開校後のつながりを意識した取組を行っています。

●開校前の出前授業・教職員交流

- 開校前の取組として、中学校から小学校6年生へ出前授業を行っています。児童アンケートでは、中学校の先生は怖いと思っていたが、面白くて良かった、中学校が楽しみになったという意見も得られています。
- 教職員の交流としては、「ふらっと参観プロジェクト」を行っています。小学校教員は中学校の日常の様子を見に行き、中学校教員は小学校の生活を見に行くことで、互いの文化を知る機会をつくっています。

●キャリア教育・地域連携

- 小中一貫カリキュラムの一つとして、キャリア教育の充実を重視しています。7年生では、地元企業と連携した職業体験「東条の匠」を実施しています。
- 学校運営協議会の中にPTCA組織をつくり、保護者だけでなく地域住民も一緒に学校を支える体制を整えています。ふるさと学習では地域住民が中心になって進める場面もあり、持続可能な体制づくりを

意識しています。

- ・見守り活動では、誰がどこに立っているかを見守りマップで共有するなど、地域全体で子どもたちを見守る取組を進めています。

●地域資源を活かした学び・異学年交流

- ・地域との交流として、昔遊びを地域の方が中心になって教える取組や、東条学園の近くの田んぼを借りて保護者も参加して行う田植え体験などがあります。
- ・異学年交流の一つとして、「つなぐ平和学習」を行っています。9年生が沖縄で学んだことを6年生に伝え、6年生が広島で学んだことを9年生に伝えるなど、学年を越えた学びにつなげています。
- ・ランチルームでは「ハッピーランチ」として給食を一緒に食べる取組を行っています。小中の教職員も一緒に入ることによって、児童生徒や教職員のつながりを生み出しています。

●学校生活の中での交流・地域活動

- ・学校前の花壇では、地域の方と一緒に花植えをしています。学年を中心に取り組み、年によっては学校全体の約3分の1の保護者や児童生徒が参加したこともあります。
- ・地域のゴルフ場と連携し、ABCゴルフツアーに関わる体験も行っています。
- ・低学年教室前には、上履きそのまま行ける屋外遊具スペースとしてプレイロットを設けています。
- ・ストリートピアノも設置しており、休み時間に子どもたちが弾いています。廃校等で使われなくなったピアノがあれば、このような活用も考えられると思います。

●学校行事・時間割の工夫・運用上の課題

- ・卒業式は隣接するホールで行い、1年生から8年生までが花道をつくれます。
- ・授業時間は、1・3・5校時の始まりを小中でそろえています。2クラスであれば時間割を組みやすいですが、3クラスになると難しさがあります。
- ・社学園は規模が大きいため、授業交流は東条学園ほど簡単ではない面があります。プールも屋上に設置しているため、運用面では苦勞している部分があります。

●中1ギャップの軽減効果と教員負担

- ・追加質問に関して、中1ギャップの解消については、軽減効果が得られています。令和7年度に市内5・6年生に対して、中学校への不安について調査した結果、小中一貫校の児童は、小学校の児童に比べて、「不安がない・どちらかといえばない」と答えた割合が10%ほど高くなっています。
- ・東条学園では、中1から新たに不登校になる生徒がないという効果も見られます。
- ・一方で、美術、技術、家庭科などでは、授業数は少ないものの中学

	<p>校 3 学年分に加えて 5・6 年生の授業やテスト作成も必要となるため、教員の負担が大きくなる面があります。</p> <p>●小中一貫教育を成功させるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校を成功させるポイントは、生徒指導とキャリア教育をうまく融合させることだと考えています。 ・生徒指導では、安心・安全な学校づくり、学級づくりを行い、児童生徒が自分の思いを安心して表現できるようにすることが大切です。 ・キャリア教育では、異学年交流や地域交流を通じて、豊かな実体験を積むことで、児童生徒の主体性が育まれています。 ・上級生は、小学生にやんちゃな姿や良くない姿を見せられないという意識を持ち、小学生は上級生を見て育っています。子どもたちの交流は比較的うまくいっていますが、小中一貫教育を成功させる鍵は教職員にあります。 ・小学校と中学校の教職員が、「小学校はこうだ」「中学校はこうだ」と主張し合うのではなく、互いに折り合いをつけることが重要です。互いを知る段階から、協働する段階へ進めていくことが大切だと考えています。
質疑応答	
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・加東市内に義務教育学校と併設型小中一貫校の両方がある中で、地域の方から、義務教育学校と併設型小中一貫校の違いについて意見が出ることはあるのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から、制度上の違いについて特に意見は出ていません。教育だよりを市全体に発行し、保護者には電子媒体で小中一貫教育の取組を発信しています。 ・地域の方にも少しずつ情報が入っており、理解を示していただいていると感じています。市民アンケートでも小中一貫教育の浸透度は高まっています。滝野地域でも、受け入れ態勢ができてきていると感じています。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の方は、義務教育学校と併設型小中一貫校の違いや違和感を覚えていないのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような話は聞いていません。加東市全体で小中一貫教育を進めているため、小中一貫校はこういうものだという認識が広がり、制度の違いによるギャップは少ないと思います。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットを見ると、義務教育学校と併設型小中一貫校のいずれも、カリキュラムは 4・3・2 制で同じように見えますが、両者に違いはあるのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・社学園も 4・3・2 制で進めています。6・3 制の中でのリーダーの場も入れながら、移行期として取り組んでいます。 ・最終的には、義務教育学校と同じような運営を目指しますが、学校規模によってやりやすさは異なります。社学園は規模が大きいため、東条学園と同じように進めることが難しい部分もあります。ただし、リーダーの場をつくるという意味で、4・3・2 制は大事にしたいと考えています。

委員C	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の異動について、他校から来た場合に小中一貫校に対する戸惑いのようなものはあるのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に研修を行います。赴任当初は抵抗や戸惑いを感じる教職員もいますが、学年で組織的に動いていくため、比較的すぐに慣れていきます。その点について、大きな苦情はあまりありません。
事務局 (AR)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の拠点的な施設でもあります。小中一貫校の整備によって、子育て環境に対する評価が良くなった、定住人口が増加したなど、地域づくりへの波及効果があれば教えてください。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・東条学園の整備により、子育て環境や校舎の良さを評価して、子どもが大きく減らない状況が続いています。 ・開校前は東条地域内でも東西でライバル意識のようなものがありました。1つの学校になったことで協力的な体制が段階的にできています。 ・東条学園が良いからこの地域に住むという方もいます。
委員D	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校には校則的なものが少なく、比較的自由な印象があります。一方で、中学校には校則があると思いますが、小中一貫校ではどのように整理しているのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校には生徒手帳に記載するようなルールがあり、加東市内で統一事項を定めています。 ・東条学園は、5年生から9年生までは生徒手帳を同じとしてルールを決めています。1~4年生はそれに準ずるものをラミネートして配布し、各家庭にて冷蔵庫に貼ってもらうことで、保護者にもルールについて認識してもらうようにしています。
加東市からのアドバイス	
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室は絶対に1つにしてください。職員室が1つの学校はうまくいっています。職員室が分かされると、小中の教職員の協働が難しくなります。 ・現在進行形で実働部隊がいる自治体に聞くことが大切です。加東市も、令和10年度に滝野学園が開校すると推進室が解散するため、その後はこうした具体的な話を聞くことが難しくなると思います。 ・人事は大変です。統合により管理職が一気に減るため、ソフト面の調整が重要になります。順番に段階的に進めないと、学校運営面で難しさが出ます。 ・設計も重要ですが、工事監理や建築管理が分かる人材がいないと大変です。技術職員の確保も検討した方が良いでしょう。 ・通学路や通学形態は、保護者の関心が非常に高い事項です。校区が広がる場合は、地域公共交通との調整も必要になります。 ・備品については、新規調達が想定以上に高額になります。既存備品を活用する場合も、選別や引っ越し作業の工程を見据えて調整する必要があります。 ・プールのあり方については、今どきのプール施設として、民間の外部プールを利用する先進地もあります。プールは年に数か月しか使わないため、整備するのか、外部施設を活用するのかを見極めるこ

	<p>とも事業費縮減の観点で重要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域展開も、今後の施設計画に影響するため、動向を見ながら検討する必要があります。
質疑応答	
委員A	<ul style="list-style-type: none"> ・美浜町では、教育委員会は教育長や課長など少ない体制で進めていますが、加東市ではどのような体制で進めているのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は3人体制でしたが、3地域で同時に検討を進めていたため業務量が多く、開示請求だけでも年間30件ほどありました。そのため、再任用職員や会計年度任用職員も含め、ソフト・ハードを合わせて最大11人の体制で対応していました。現在は9人体制となっています。 ・技術職と教員経験者を含めた体制で進めています。
委員D	<ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップは、小学校と中学校の違いによって生じるものだと思います。5・6年生の段階から7年生と同じフロアに教室を移動することだけで解消されたわけではないと思いますが、こういった取組や環境の変化が中1ギャップの解消につながったのでしょうか。
加東市	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃる通り、教室の移動だけで中1ギャップの解消につながったということではありません。5・6年生の段階から中学校教員と交流し、授業を受けることや、小学生と中学生が異学年交流を重ねることが重要です。 ・中学校の先生や上級生を知らないまま進学するのではなく、日常的に関わりを持つことで、学習、部活動、友達関係、中学校生活への不安の軽減につながっています。
5. 閉会	
事務局（教育長）	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、事前の質問事項にも丁寧にご回答いただき、また現地で直接お話を伺う機会をいただき、ありがとうございました。 ・美浜町では、これから新しい学校教育を一から構築していく段階です。本日の研修を通じて、最後にお話しいただいた「折り合い」をつけるという点が、非常に重要であり、難しいところでもありました。 ・小中一貫教育学校の開設に向けて、今後も検討を進めていきたいと考えています。また質問等が出てきましたら、ご相談させていただきます。本日はありがとうございました。 <p style="text-align: right;">以上</p>